アフターサービス

・万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をくわしくご連絡の上お申しつけください。

・保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

保　証

・保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。

・保証期間終了後の修理については、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元

Wheel Chair MiKi

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号

1212-001

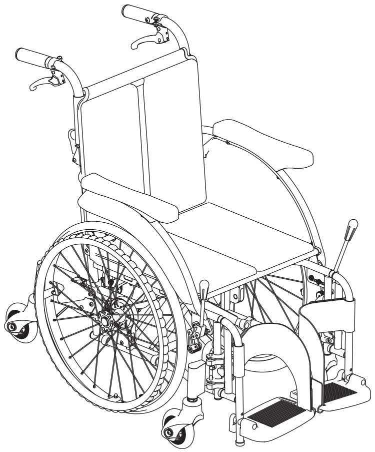
車いす／スキットシリーズ 取扱説明書

SKT-5/SKT-6

より快適に車いすをお使いいただくために

はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。



※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

目　次

使用目的・特徴 ………… 2
はじめにご確認ください … 2
安全上のご注意 ………… 3
各部のなまえ ………… 8
使いかた ………… 9
　ブレーキのかけかた ………… 9
　開きかた / たたみかた ………… 11
　シートの取り付け / 取り外し …… 13
　乗り降りのしかた ………… 15
　アームサポートの跳ね上げ …… 17
　フット・レッグサポートの開閉・取り外し …… 18
各部の調節のしかた ………… 19
使用上のご注意 ………… 21
困った時には ………… 25
仕　様 ………… 27
アフターサービス ………… 裏表紙
保　証 ………… 裏表紙

本書は、スキットシリーズ（SKT-5、SKT-6）共通の取扱説明書になります。
本書では、機種ごとに装備が異なる項目には、該当機種を記載しております。
該当機種を確認いただき、ご自分の車いすに関係する項目をお読みください。

使用目的・特徴

本製品は室内用の手動式車いすで、一人乗り用です。これに搭乗して移動と、休息を目的としています。

SKT-5の場合

特殊な身体保持具、バックサポート（背）・座位の角度調整機構等がなく、使用者がハンドリムを操作して駆動する手動式の自走用標準形車いすです。
日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

SKT-6の場合

特殊な身体保持具、バックサポート（背）・座位の角度調整機構等がなく、介助者が操作する介助用標準形車いすです。
日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

はじめにご確認ください

本製品ご購入後に、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものがすべてはいっていることを確認してください。

- 車いす本体
- 工具（スパナ 2ケ　六角レンチ 5㎜・4㎜・3㎜ 各1ケ）
- アウター背シート
- アウター座シート
- 取扱説明書
- 保証書
- レッグサポート

※本製品は構造上、平坦な場所でも人が乗っていない状態では、キャスタが接地しないことがあります。使用者搭乗時には接地しますので安全上の問題はありません。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。
表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

【記号の意味】

⚠	警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
🛇	禁止の行為であることを告げるものです。
❗	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠危険

🛇 **スピードを出さないでください。**
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

❗ **急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。また、介助用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。**

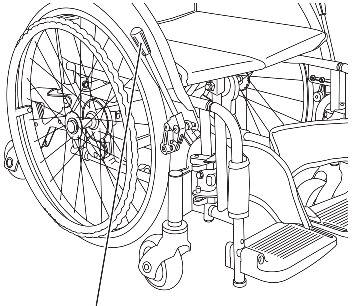
❗ **自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。**

⚠警告

乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
駆動輪（主輪）が浮き上がり、転倒する恐れがあります。

乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。

乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。



駐車用ブレーキのレバー

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。

⚠警告

SKT-6 の場合

アームサポートを跳ね上げた状態で走行しないください。
使用者が車いすから落ちて、事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートを戻した後は、必ずロックされたことを確認してください。
使用中に外れると、事故やけがにつながる恐れがあります。

アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
アームサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

フット・レッグサポートを開いた状態で走行しないでください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポートを閉じた後は、必ずフックで固定されたことを確認してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。
フット・レッグサポートのロックが外れ、けがをする恐れがあります。

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠注意

この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。

車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。

⚠注意

最大体重（積載物含む）は100㎏になります。体重制限を守って使用してください。

使用する前に駆動輪（主輪）・キャスタ・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。

使用者が乗車中は、背折れの操作は絶対に行わないでください。
背折れのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。

背折れジョイント、跳ね上げ式アームサポート、フット・レッグサポート、スイングアームなどの可動部に指や身体をはさまないよう注意してください。

走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。

走行中、身体を乗り出さないでください。
走行の安全を損ない危険です。

操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。
事故やけがにつながる恐れがあります。

SKT-6の場合

アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。
アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。
手をはさみ危険です。

車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。
車いすの破損や故障の原因となります。

⚠注意

フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。
けがをする恐れがあります。

フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。

段差乗り越え時は充分にご注意ください。また、凹凸のある場所での使用および駐車はさけてください。
駆動輪（主輪）が接地せず、制動用ブレーキ・駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。

段差乗り越えの際、介助者はスイングアームに足を乗せ体重をかけないでください。
車いすの破損、転倒の恐れがあります。

シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。

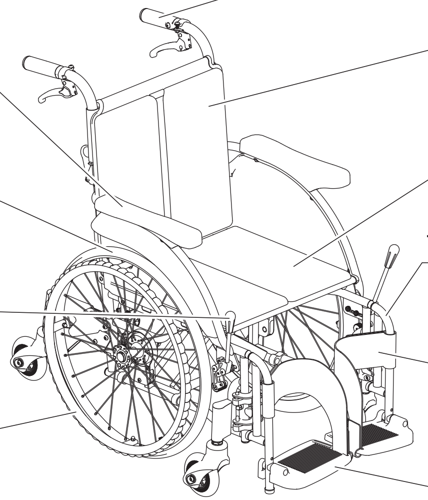
使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側にひろがった状態で使用しないでください。
車いすの破損や故障の原因となります。

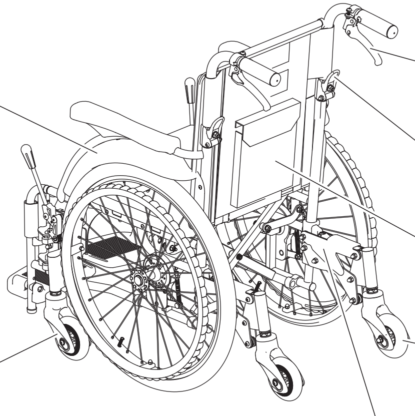
この車いすは室内用です。平坦な場所以外では使用しないでください。

各部のなまえ

下図は SKT-5 になります。

自走型





使いかた

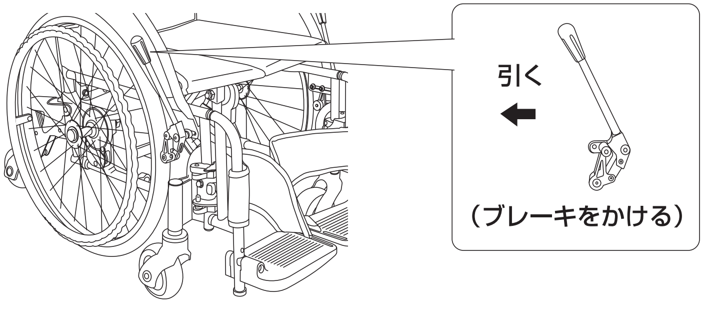
ブレーキのかけかた

⚠警告	・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。 ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 ・乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜がある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 ・ タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

● 駐車用ブレーキのかけかた

使用者が、左右のブレーキレバーを手前に引いてかけます。

ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



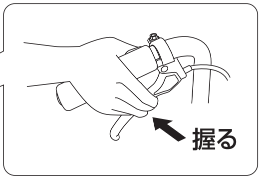
● 制動用ブレーキ（介助用ブレーキ）のかけかた

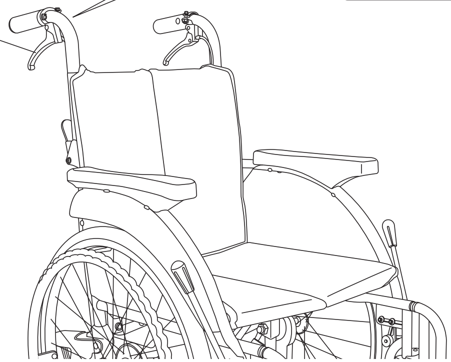
⚠危険	・スピードを出さないでください。スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 ・急な下り坂で介助するときは、後ろ向きにゆっくり降りてください。 また、制動用ブレーキを使いスピードを落としてください。

⚠警告	制動用ブレーキは、介助者がブレーキレバーを左右同時に握ってかけてください。 転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。

⚠注意	ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。 （交換の目安:1年に1度）

介助者が、左右の手押しハンドル下の
制動用ブレーキレバーを握ってかけます。
ブレーキレバーを放すと解除されます。





開きかた/たたみかた

⚠注意	・シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでけがをする恐れがあります。 ・必ずブレーキをかけて操作を行ってください。 ・背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。

● 開きかた

1 手押しハンドルを両側とも上げます。

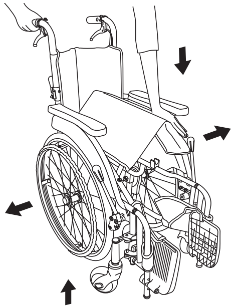
＊開口部に手や指を近づけないでください。

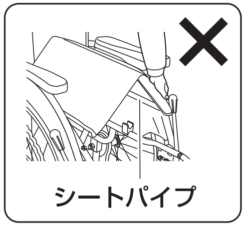
2 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。

3 片側の駆動輪（主輪）を少し浮かせて、その状態を保ちます。

4 駆動輪（主輪）を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。

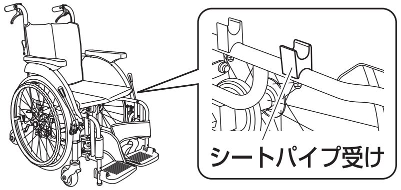
＊シートパイプを握らないでください。





シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとはまっていることを確認してください。

＊しっかりはまっていない場合は、シートパイプの中央付近を押してはめてください。押す時は、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。

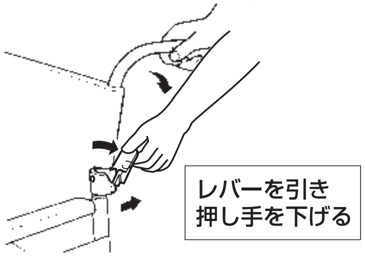


シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。

● たたみかた

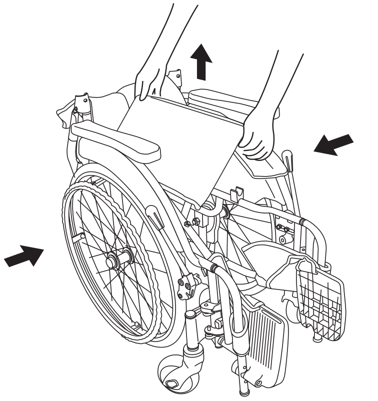
1 車いすの駐車用ブレーキを両輪にかけておきます。

2 図のように、手押しハンドルを
両側とも下げます。



3 フットサポートを両側とも上げます。

4 座のシートの前後を持ち上げて、
シートパイプを引き寄せます。



5 左右のアームサポートを外側から内側に押し、
座のシートを折りたたみます。

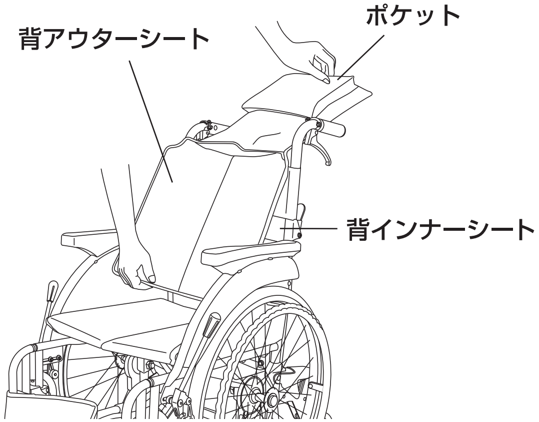
シートの取り付け/取り外し

⚠注意	・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

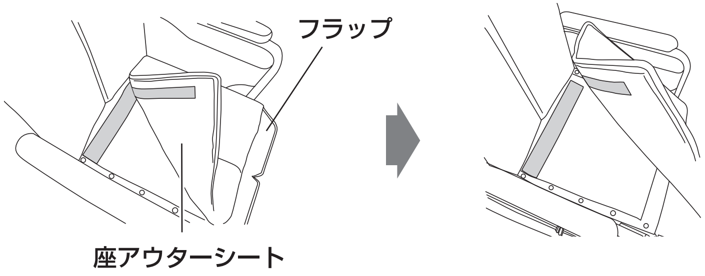
● 取り付け

1 背アウターシートのポケット部を後ろにし、折り目部分が上にくるように車いす本体にあわせます。

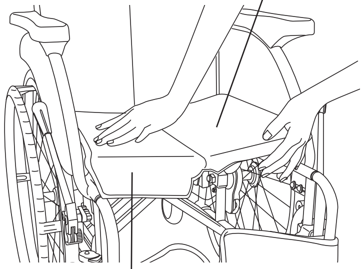
背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせます。



2 座アウターシートのフラップを前側にし、車いす本体のインナー座シート表面の面ファスナーと貼り合わせます。

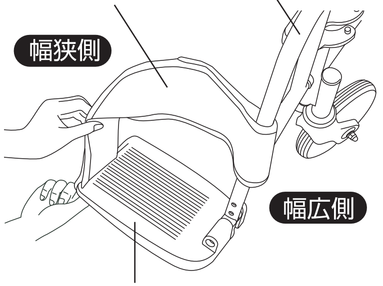


3 フラップ部を折り曲げ
インナー座シート裏面の
面ファスナーと貼り合わ
せます。



4 レッグサポートの幅広側の
端を車いす本体のレッグパイプに
巻きつけ、面ファスナーを
貼り合わせます。

5 レッグサポートの幅狭側の
端をフットサポート先端の
前後どちらかの穴に差し
込みます。



6 穴に通したレッグサポートの
端を折り返して面ファスナー
を貼り合わせます。

7 反対側も同様の作業を行います。

● 取り外し

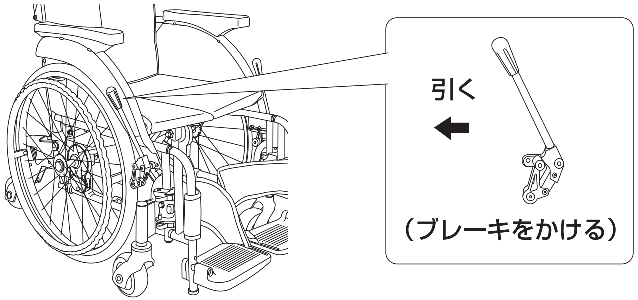
取り外しは逆の手順になります。

乗り降りのしかた

⚠警告	・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。 車いすが動きだし大変危険です。 ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。 転倒し、けがをする恐れがあります。 ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。 けがをする恐れがあります。

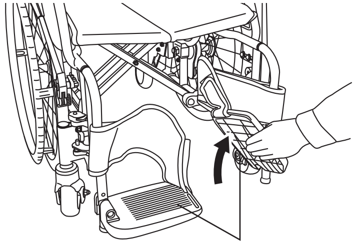
● 乗りかた

1 駐車用ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

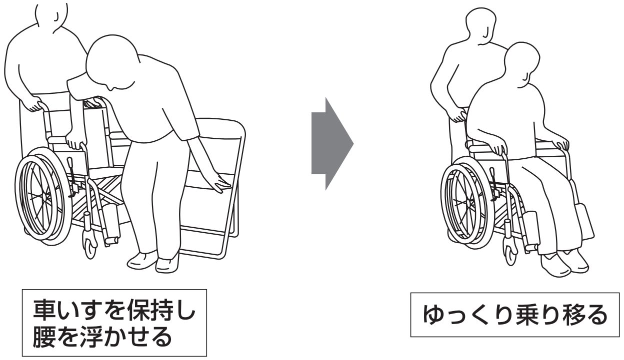


2 フットサポートを両側とも上げます。

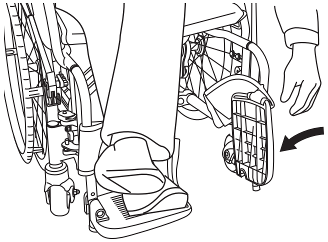
＊フットサポートの上には乗らないで
ください。
転倒し、けがをするおそれがあります。
＊上げたフットサポートに足が当たらない
よう注意してください。
けがをするおそれがあります。



3 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。

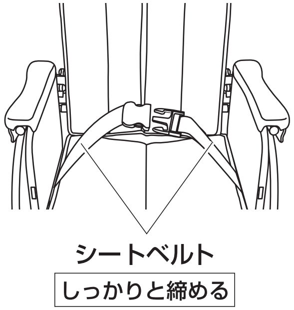


4 フットサポートを降ろして
両足を乗せます。



5 シートベルト（オプション）を
締めます。

＊体格に合わせてシートベルトを調整し、座位をしっかりと安定させてください。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行なってください。

アームサポートの跳ね上げ

該当機種	SKT-6

アームサポートをワンタッチで後方へ跳ね上げることができます。
ベッドと車いすの間の移乗などがスムーズに行なえます。

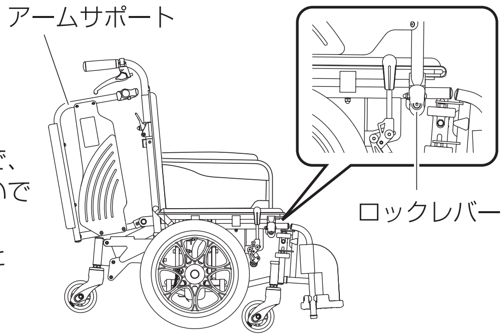
⚠注意	・操作は、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行なってください。 ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。部品が外れて使用者に転倒、落下すると、事故やけがにつながるおそれがあります。 ・アームサポートを跳ね上げて乗り降りする際は、アームサポートを最後まで跳ね上げたことを確認してから行ってください。アームサポートが身体、衣服に引っかかり、けがをする恐れがあります。

ウイングロック

● 跳ね上げかた

ロックレバーを押しながら、アームサポートを後方へ跳ね上げます。

＊アームサポートを上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。
フレームが変形し故障の原因となります。



● 戻しかた

⚠注意	アームサポートを下ろすときは、身体をはさまないように注意してください。

アームサポートを下ろし、完全にロックされたことを確認します。

＊アームサポートを下ろした後、アームサポートが完全にロックされていることを確認してください。

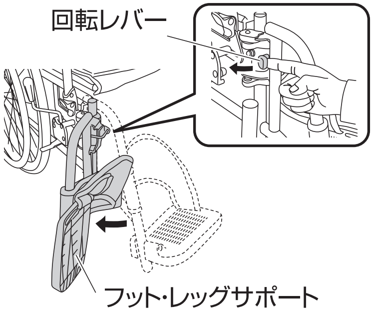
フット・レッグサポートの開閉・取り外し

フット・レッグサポートをワンタッチで開閉することができます。車いすへの乗り降りの際、フット・レッグサポートが脚にぶつかることなくスムーズに移乗することができます。

⚠警告	・**フット・レッグサポートの開閉・取り外し・取り付けは、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてから行なってください。** ・**フット・レッグサポートを持って車いすを持ち上げないでください。** ロックが外れて使用者が転倒、落下すると、事故やけがにつながるおそれがあります。 ・**開閉時、フック部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。** けがをする恐れがあります。 ・**乗り降りの際、スイングアウト部に身体や衣服が引っ掛からないように注意してください。** 転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。

● 開きかた

回転レバーを矢印の方向に引き、そのままフット・レッグサポートを外側に回転させて開きます。



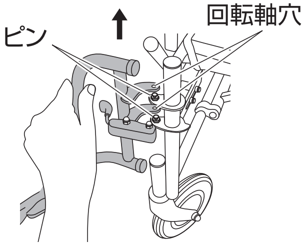
● 閉じかた

⚠注意	**フット・レッグサポートを閉じるときに、指をはさまないよう注意してください。**

フット・レッグサポートを内側に回転させて閉じます。閉じた後、フット・レッグサポートが完全にロックされたことを確認します。

● 取り外しかた

フット・レッグサポートを外側に開いた状態で、垂直に引き上げます。



● 取り付けかた

車体フレーム側の2つのピンにフット・レッグサポート側の回転軸穴（2箇所）を合わせてはめ込みます。

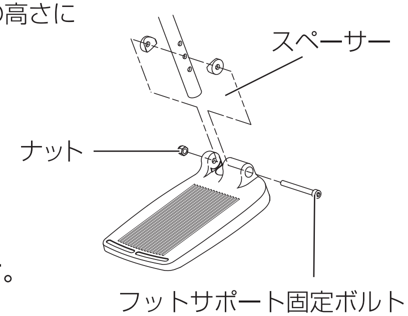
＊フット・レッグサポートを開いた状態で、フット・レッグサポートに力を加えないでください。金具が変形し故障の原因となります。

各部の調節のしかた

⚠警告	**各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行なってください。**

フットサポートの高さ調節

フットサポートは20mm 間隔で3段階の高さに調節することができます。

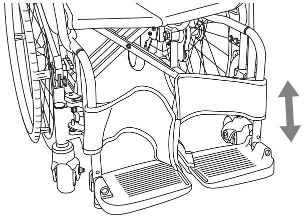


1 **駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。**

2 **フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。**

3 **脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。**

4 **希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。**

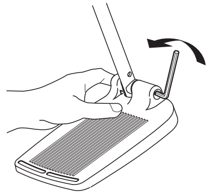


＊反対側も同様に調節してください。

フットサポート調節のコツ

取り外すとき

1 **六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出してきたら、ナットを指で押さえておきます。**



⚠注意	**ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。**

2 **フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。**

フットサポート調節のコツ（つづき）

取り付けるとき

- ● フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- ● フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。

バックサポートの張り具合調節

⚠注意	・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。 ・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、充分に車いすが開かなくなり、フレームの変形の原因になります。

＊バックサポートの張り具合を随時チェックし、必要に応じて調節してください。

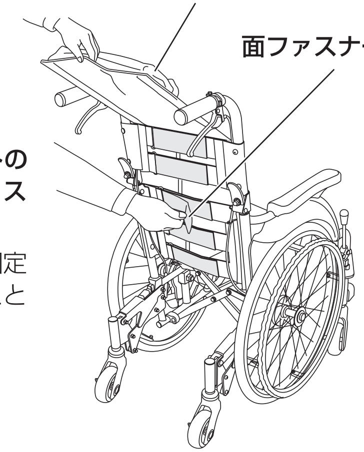
1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。

2 ポケット部をめくり上げます。

3 面ファスナーをはがし、バックサポートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。

＊手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。

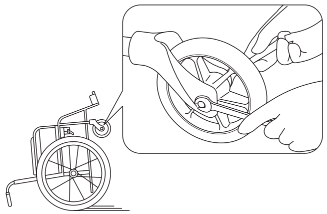
4 ポケット部を元に戻します。



使用上のご注意

保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。
＊ 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠警告	キャスタ・駆動輪（主輪）・ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。 

・ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

● 消耗品、交換部品の確認

⚠注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

消耗品・交換部品

品　名	交　換　時　期
駆動輪（主輪）	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスタ	表面の摩耗が著しいとき。 キャスタ軸のゴムパッキンが劣化した時。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、サビが発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。

・水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。

・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

● シートのお手入れ

・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。

・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠注意	シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。 製品を傷める恐れがあります。

● 保管・収納について

・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。

・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

飛行機へ搭乗される場合

本製品にガススプリング（ガスダンパー）を使用していることを事前に利用予定航空会社または旅行代理店へご相談ください。

走行上のご注意

※この車いすは室内用で設計されております。ご使用の際は以下の点にご注意ください。

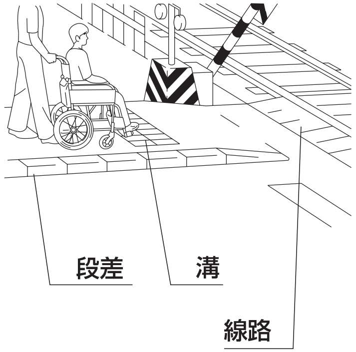
・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。

・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。

・溝や踏切の線路による落輪、キャスタの挟み込みには充分注意してください。

・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。

・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。



段の上がりかた

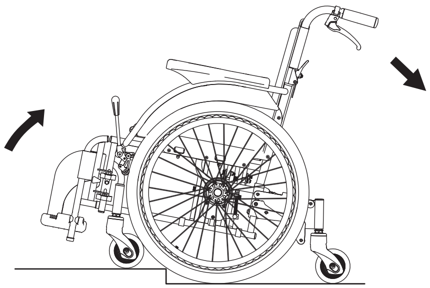
⚠注意	スイングアームに足を乗せないでください。

1 介助者が手押しハンドルを手前に引くように押し下げキャスタ（前）を段の上にあげます。

＊段の手前で停止してから動作をおこなってください。

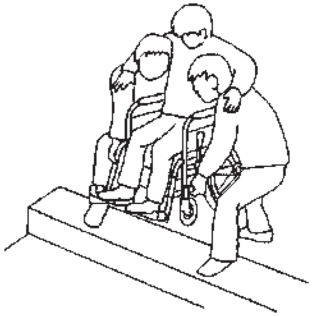
2 駆動輪（主輪）を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。

＊無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。



車いすに乗ったまま持ち上げる場合

⚠警告	持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、フット・レッグサポート、フットサポート、スイングアームなどは持たないでください。



車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行ない、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持って持ち上げます。

段の下りかた

手押しハンドルで車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

＊無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。
＊段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

困った時には

車いすをご使用されていて「故障かな」と思われましたら、販売店へ連絡するまえに下記項目を確認してください。

<table>
<tr><th>症　状</th><th>確　認　点</th><th>対　処</th></tr>
<tr><td rowspan="3">車いすがまっすぐ走らない。斜行する。</td><td>路面が傾斜していませんか。

車いすは、傾斜面では低い方へキャスタが流れる特性があります。</td><td>低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。
〈自走の場合〉
傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。
〈介助者が押す場合〉
傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。</td></tr>
<tr><td>キャスタの回転に左右差がありませんか。キャスタ軸の回転がスムーズですか。</td><td rowspan="2">お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。</td></tr>
<tr><td>搭乗した状態でキャスタ（前）・駆動輪（主輪）の計４輪がきちんと接地していますか。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">駐車用ブレーキが効かない。</td><td>駆動輪（主輪）のタイヤは摩耗していませんか。</td><td rowspan="2">お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。</td></tr>
<tr><td>駐車用ブレーキのタイヤ押えが駆動輪（主輪）にきちんと当たっていますか。
駐車用ブレーキがガタついていませんか。</td></tr>
</table>

困った時には

症　状	確　認　点	対　処
制動用ブレーキ（介助ブレーキ）が効かない。	ワイヤーチューブが、折れ曲がったり、引っ掛かったりしていませんか。	インナーワイヤーがスムーズに動くように、ワイヤーチューブの取廻しを修正してください。改善がみられない場合は、お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ワイヤーが伸びたり、切れたりしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
異音がする。	本体や駆動輪（主輪）とオプション品、アクセサリーなどとの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは駆動輪（主輪）など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油きれなどによっておこる摩耗音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	ボルト類の緩み等がおきていませんか。	
	フレームに歪みが発生していませんか。	
車いすが開かない。	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。

仕　様

	SKT-5	SKT-6
フレーム材質	アルミ	アルミ
シート材質	#32、#41　：ナイロン #A-4、#A-6：ポリエステル	#32、#41　：ナイロン #A-4、#A-6：ポリエステル
アームサポート	ウレタン	ウレタン
サイドガード	樹脂	樹脂
グリップ	エンボスグリップ	エンボスグリップ
バックサポート	テンション	テンション
背折れ	あり　レバー式	あり　レバー式
フック・レッグサポートタイプ	開閉式（スイングアウト）	開閉式（スイングアウト）
フットサポート	軽量ステップ　黒	軽量ステップ　黒
キャスタ（前・後）	4”（黒）ワイドキャスタ	4”（黒）ワイドキャスタ
タイヤ	ハイポリマータイヤ	ハイポリマータイヤ
制動用ブレーキ	あり　レバー式	あり　レバー式
ハンドリム	プラスチックハンドリム	なし
駐車用ブレーキ	SKT-5用STブレーキ	SKT-6用STブレーキ

単位mm

	SKT-5	SKT-6
全長	880	870
全幅	550	480
全高	870	820
シート幅	400	400
前座高	400	375
後座高	375	350
シート奥行き	380	380
バックサポート高	380	380
駆動輪・主輪径	20×1.3/8インチ	14×1インチ
キャスタ径	4インチ	4インチ
アームサポート高	220	220
フットパイプ長	300±20	280±20
折りたたみ時の全幅	285	230
折りたたみ時の全長	735（875）	690（850）
折りたたみ時の全高	640	620
重量	15.2kg	14.7kg

シート幅はアームパイプの内々のサイズです。
（　）内はフット・レッグサポートを取り付けたままのサイズです。
折りたたみの寸法の全幅については、ワンタッチソフトシート（背・座）を外した時のサイズです。